

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人 城西大学
〒 102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
☎ 03-6238-1300
http://www.josai.jp/

Newsletter

Josai University Educational Corporation
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.19
(2014.9.30 発行)



会場の水田記念ホールに集った世界各国からの新入生

城西国際大学秋季入学式

城西国際大学は9月9日に「2014年度秋季入学式」を千葉東金キャンパスの水田記念ホールで挙行了しました。
今回新入生となったのは、中国、台湾、韓

国際交流活動

城西国際大学秋季入学式、

城西大学学位授与式および入学式を挙

日時：2014年9月9日、14日
場所：城西国際大学千葉東金キャンパス、城西大学坂戸キャンパス

国、ベトナム、タイ、フィリピン、パキスタン、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、スペイン、ノルウェー、ハンガリー、チェコ、ポーランド、スロバキアの各国から集まった留学生たちです。国際色あふれる入学式となりました。



駐日ハンガリー共和国大使館 Györgyi Juhász 参事官



駐日スロバキア共和国 特命全権大使 Michal Kottman 閣下



新入生代表の Jakub Novotný さん



駐日ノルウェー王国大使館 Kari Steenstrup Vaalund シニア・アドヴァイザー



式後開催された留学生学友会

ご来賓としてご臨席された駐日スロバキア共和国大使館特命全権大使の Michal Kottman 閣下、駐日ハンガリー共和国大使館の Györgyi Juhász 参事官、駐日ノルウェー王国大使館の Kari Steenstrup Vaalund シニア・アドヴァイザーからは新入生へのメッセージをいただきました。
新入生を代表して、Jakub Novotný さん（スロバキアのプレシヨフ大学 [University of Presov in Presov] 出身）は、「新入生一同は、建学の精神を実現するために、約束を順守し、勉学に専念することを誓います」と宣誓しました。
また、式後に留学生学友会も開催され、すでに在籍している先輩留学生も交えた素晴らしい交流の場となりました。

城西大学秋季学位授与式・入学式

爽やかな秋晴れにめぐまれた2014年9月19日、城西大学の秋季学位記授与式と入学式が、坂戸キャンパスの清光ホールで執り行われました。この日、112名が城西を巣立ち、9か国からの交換留学生ら88名が新たに城西の仲間になりました。内訳は中国51名、マレーシア18名、ハンガリー9名、韓国3名、ポーランド3名、タイ、スリランカ、チェコ、スロバキア各1名で、チェコとスロバキアからは初の受け入れとなりました。

森本雅憲学長から卒業生代表に学位記や卒業証書が授与された後、新入生が紹介されました。水田宗子理事長は式辞で卒業生と新入生に向けて「これからの日本と世界のために、お互いが手を取り合って生活を充実した



厳粛な式の様子

ものにしてほしい」と呼びかけました。また、森本学長は告辞で「高い志と信念を持って、大いに努力してそれぞれの目標を達成してください」と語りました。

来賓の駐日ハンガリー大使館のユハース・ギョルギ (Gyöngyi Juhász) 参事官らの祝辞に続いて、上田清司埼玉原知事やツイリル・コザチエフスキ (Gyryl Kozaczewski) 駐日ポーランド大使のお祝いのメッセージが紹介されました。

卒業生を代表して原田美穂さん(薬学部薬学科)が、先日の広島県での大雨被害に触れ「困難に立ち向かう人々を助けることができ、医療人になれるよう努力していく」と答辞。新入生を代表して許書斐さん(現代政策学部)が、「城西大学と私たちの国が強い絆で結ばれるよう、私たち留学生が懸け橋となるよう努力していきたい」と宣誓しました。



世界から集まった城西生たち

国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」を開催

日時：2014年9月16日
場所：城西大学坂戸キャンパス



本学と埼玉県が共催して国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」が9月16日、城西大学の坂戸キャンパス(清光会館ホール)で開かれました。これは、同12日から14日にかけて東京都内で行われた政府主催の「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」(World Assembly for Women in Tokyo) の地方展開の一つでした。県や女性団体の関係者、地域の方々、教職員や学生計約500人が、世界の第一線で活躍する女性リーダーによる貴重な話に熱心に耳を傾けました。

東京のシンポジウムには、ラガルド国際通貨基金専務理事をはじめ世界各国から政治リーダーやビジネスリーダー、有識者が参加。本学のシンポジウムには、米国のシンクタンク・ブルッキングス研究所シニア・フェローのミレア・ソリス (Mireya Solis) 氏とポルトガルの最先端医療研究施設・シヤンパリモー財団理事長のレオノール・ベレーザ (Leonor Beleva) 氏が参加しました。

当日は開会前にあった地震対応のため急きょ欠席した上田清司知事の挨拶文を福島勤県民生活部長が代読しました。「地方イベントを」ぜひ先進県の埼玉県で開いてほしいと国から話があり、本県が誇る女性学の権威である水田宗子理事長に共催開催をお願いしたところ快諾をいただいた」と開催の経緯を紹介しました。また、水田理事長は「上田知事と大勢の男性教職員の理解と協力で、城西の女性は輝いています」と挨拶しました。

講演では、日本の対外経済政策の専門家で

あるソリス氏が「女性の地位向上に果たす地方政治と地域コミュニティの役割は大きい。それが中央政府、日本の立ち位置を変えていく」と強調しました。ポルトガルの保健大臣などの要職を務めたベレーザ氏は2人の子どもを抱えながら33歳で政府の要職に就くことになった自身の経歴に触れ、「人口の半分を占める女性には素晴らしい才能があるのに生かされていけない。自分たちの中に障害を作っている」と語りました。



熱心に語るパネリストたち



名誉教授証書を授与される水田理事長

その後、水田理事長は香港城市大学の
Comte Fan Multi-media Conference Room に
おいて、同大学大学院の経営学での名誉教授
(Honorary Professorship of Department of

Management from 2 April 2014 to 31 March
2017) を授与されました。授与式には、Kuo
学長から水田理事長に名誉教授の証書と記念
品のクリスタルが授けられました。引き続き
いて、今回の授与を記念して、水田理事長
が「The Yamamba's Long Life: The Cultural
Dynamics of the Aging society」というテー
マで同大学の学生や教職員に講演を行いました。
高齢社会の問題は、香港でも喫緊の課題
であったため、大きな反響を呼びました。

今回訪問団一行は特別に Way Kuo (郭位)
学長自ら、School of Creative Media をは
じめ Department of Media and Communication,
Run Run Shaw Library, Japanese Tea House
を案内していただきました。特に、メディア
のキャンパスにおいては、Shaw 学部長によ
る案内で、1987年にユネスコの世界遺産
(文化遺産) に登録された仏教遺跡の莫高窟、
敦煌石窟、敦煌千仏洞を3Dプロジェクト
で再現され、実際に洞窟の中にあるような体
験をしました。加えて、カメラを多数設置し
た特別なインタビュールームで水田理事長が
学生によるインタビューを受けました。これ
は、さまざまな角度から撮影することによっ
て万全な映像を提供することができ、香港城
市大学独自のものです。同学ではメディア学
部に大変力を入れており、学生たちの豊かな
才能を引き出す場として素晴らしい環境であ
ることが感じられました。

2014年4月14日、ポーランドのノ
ヴァック＝ファル外務副大臣 (Nowak-Far) 外務副大
臣が東京紀尾井町キャンパスに来学され、講
演を行いました。
講演に先立ち、水田宗子理事長は「ノ
ヴァック＝ファル外務副大臣に講演をいただ
けることを大変うれしく光栄に存じます。多
くの日本人が精通していないEU法について
お話ししていただくことは、学生にとって素晴
らしい機会となるでしょう」と挨拶しました。
「Japanese Journey into the EU Law」と題
した講演では、EU法の概要をはじめ、法律
制度について説明されました。EU法は国際
機関の法律であり、特徴として24の言語で
書かれ、28か国で適用されていることなどが
挙げられました。さらに日本の法律制度との
違いについて説明し、共通点を見つけること
は難しいと話されました。質疑応答では、E
U法による地元の人々の影響などの質問があ
り、活発な議論が行われました。



ノヴァック＝ファル外務副大臣

名誉学位

名誉学位

水田理事長が香港城市大学より

名誉教授を授与、記念講演を実施

日時：2014年4月8日～10日
場所：香港城市大学、中華人民共和国

講演後の学生たちの質問に対し、「企業に
入ったら良き同僚、良き先輩を見つけること
が大事。シャイであってはならない」(ソリ

ス氏)、「自分自身に制限を加えてはならない。
自分の仕事をあきらめないでほしい」(ペレー
ザ氏) などとアドバイスを送りました。

ポーランド外務副大臣が来学、講演を実施

日時：2014年4月14日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



本学と香港城市大学は、2012年に学術
交流協定を締結して以来、2013年6月に
は城西国際大学国際人文学部海外留学奨励奨
学生制度での26名の学生を送り出し、同年12
月には香港城市大学よりウィンターセミナー
で20名の学生を受け入れるなど、現在さまざ
まな形で交流を展開しています。
今回の訪問により、今後もそれぞれの分野
において積極的に交流が進むことが大いに期
待されます。

水田理事長や城西大学、城西国際大学の両学長をはじめ、両大学の学生や欧州など海外からの留学生などが集まり、熱心に耳を傾けました。

また、講演会終了後のレセプションでは留学生や学生たちが講演内容に関する意見交換や質疑応答を含め、積極的に外務副大臣との交流を深めました。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動の強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を進めています。ポーランドに関しても、2012年

3月に城西大学水田美術館にて「キュリー夫人展——ポーランドが生んだ女性科学者、今なお光輝く理由——」を開催や、2013年11月に中欧研究所を学術センターとして東京紀尾井町キャンパスに設置を通じて、国際交流を図っています。

中欧研究所は、中欧地域での教育実績を踏まえ、同地域とのさらなる共同研究・学術交流・人材育成の推進、学部・大学院教育支援を目的に積極的な活動を行っており、今後、ポーランドの大学ともより一層の交流が大きい期待されます。

スロヴェニア共和国前大統領が来学、講演を実施

日時：2014年4月23日

場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2014年4月23日、スロヴェニア共和国のダニロ・デュルク (Danilo Turk) 前大統領が東京紀尾井町キャンパスを訪問され、講演および学生たちとの交流が行われました。スロヴェニア共和国は、中欧ヨーロッパに位置する国で1991年6月にユーゴスラビアとの連邦解消とスロヴェニアの独立を宣言し、苦難の末に独立を果たしました。

ダニロ・デュルク前大統領は、2000年から2005年にかけて国連事務次長補を務め、在任中は紛争防止問題に取り組みしました。また、2005年からリュブリャナ大学 (University of Ljubljana) で国際法の教授を務め、2007年には同共和国の第3代大統領に選出され、2012年にその任を終えました。

午後3時に到着されたダニロ・デュルク前大統領は、同行のヘレナ・ドルノウシエ

ク・ゾルコ (Helena Drnovsek Zorko) 大使、オト・フンガルトニック (Oto Pungartnik) 公使とともに水田宗子理事長ら大学関係者と懇談されました。

ダニロ・デュルク前大統領の講演に先立ち、水田理事長は「著名な法学者、外交官であるダニロ・デュルク前大統領の講演を聞く機会に恵まれたことは、本学の学生にとってこの上ない喜びです」と挨拶をしました。

続いて、中欧研究所の柴宜弘副所長は「中欧研究所ではこれまでヴィシエグラード4か国 (V4) との接触が多かったが、今回の講演をきっかけにヴィシエグラード4か国だけでなく、スロヴェニアとの関係も強化できれば」と幅広い関係者等に期待を語りました。

ダニロ・デュルク前大統領は「国連の未来 (The Future of the UN System)」と題した講演で、上級外交官および国連高官としての

経験を踏まえ、国連のシステムの概要から安全保障、開発、人権の三つの分野について話をされ、欧州からの留学生を含む城西大学と城西国際大学の両学の学生たちは熱心に耳を傾けました。

質疑応答では、城西大学経済学部の藤野翔太郎さんが「私は将来、国連で働きたいと考えており、プラハ経済大学 (University of Economics, Prague) へ留学予定です。そこで、国連システムにおいて改革が必要なのは何か」と質問をしました。それに対してダニロ・デュルク前大統領は「改革の必要性を論じる前にまず国連システムの全体像を把握し、批判的にその組織を捉え、どのような改革が必要かを議論すべきである」と答え、問題の捉え方を説明しました。欧州など海外から城西大学と城西国際大学に学んでいる留学

生や城西国際大学国際アドミニストレーション専攻の学生からほかに質問があり、その一つひとつにダニロ・デュルク前大統領は丁寧に答えられました。

講演後のレセプションでは、講演に参加した学生からさまざまな質問がなされ、和やかな雰囲気の中、予定時刻を超えて歓談が行われました。

本学はこれまで中欧諸国の大学に関して、学生交流および人材育成に積極的に取り組み、中欧地域での教育交流および文化交流の実績を積み上げてきました。中欧研究所は、さらなる共同研究・学術交流・人材育成の推進、学部・大学院教育支援を目的に積極的な活動を行っています。前大統領のご訪問を契機として、今後、スロヴェニア共和国の大学とも交流の活性化が期待されます。



講演するダニロ・デュルク前大統領



学生たちとの交流



ワライラック大学と学術交流協定を締結

日時…2014年5月9日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



学術交流協定を締結

2014年5月9日、学校法人城西大学はタイのワライラック大学 (Walailak University) と学術交流協定を締結しました。学校法人城西大学は、国際交流活動の強化を目的に世界各国の大学と積極的な国際交流を進めており、近年特にアジア諸国と中欧諸国の大学との国際交流を強化しています。タイにおいても、2012年10月に泰日経済技術振興協会 (Technology Promotion Association (Thailand-Japan)) との連携協力を締結、2013年1月にはバンコク大学

(Bangkok University)、4月にはランシット大学 (Rangsit University)、5月には泰日工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology) と学術交流協定を結んでいます。

ワライラック大学とは、本学の学生が毎年参加している「アジア・サマープログラム (Asia Summer Program)」において既にプログラム交流を始めておりますが、今回のキーラート・サンクアンサイ (Keerath Saenguanjai) 学長らのご来学に伴い両大学間の学術交流を締結することになりました。ワライラック大学は、1992年に設立されたタイにある31校の国立大学の一つで、大学の名称は国王ラーマ9世 (Bhumibol Adulyadej: Rama IX) の三女 (第4子) であるチュラポーン・ワライラック王女 (Chulabhorn Walailak) にちなんだものです。農業技術学部、医療衛生・公衆衛生学部、建築・デザイン学部、工学・資源管理学部、情報科学学部、人文学部、マネージメント学部、医学部、看護学部、薬学部、理工学部の11学部を有し、6千名の学生が在籍しています。

キーラート学長は、東京紀尾井町キャンパスにご到着後、水田宗子理事長をはじめとする学校法人城西大学の執行部メンバーらと面会されました。

締結に先立ち、水田理事長は、「ワライラック大学と学術交流協定を締結することを大変うれしく光栄に存じます。本学とワライラック大学は共通の学部が多く、今回の締結を機に具体的な交流を推進していきたいと思いま



審査後の記念撮影

2014年5月17日、チェコ共和国大使館の主催による「第20回チェコ語弁論大会」が東京紀尾井町キャンパスの地下ホールで開催されました。



第20回チェコ語弁論大会開催

日時…2014年5月17日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

す」と挨拶しました。続いて、キーラート学長が「温かい歓迎を受け、心よりお礼を申し上げます。今後、本学の学生を城西大学・城西国際大学に送り、両学との交流を深め、人材育成に務めていきます」と話されました。

ワライラック大学と城西国際大学は、看護学部、薬学部を有していることなど共通点も多く、今回の学術交流協定に伴い、今後、両大学の間で具体的な交流がスタートすることが期待されます。

現在、チェコ共和国大使館が改修中であるため、中欧諸国の大学との学生交流および人材育成に積極的に取り組み、同地域での教育交流および文化交流の実績を積み上げている本学が、昨年に続き会場を提供いたしました。

大会の開催にあたり、水田宗子理事長は、「昨年に続き、チェコ語弁論大会が本学で開催されるのは誠に光栄です」と述べられました。続いて、カテリーナ・フィアルコヴァー (Kateřina Fialková) 大使から「チェコ語弁論大会も今回で20回目を迎え、大変嬉しく思っております。ここ数年、チェコ語を学ぶ日本の方は多くなっており、今回の弁論大会には、予想以上の応募があったため、急遽2回に分けて行うことになりました。会場を提供してくださった水田理事長をはじめ関係者の皆さま方に心よりお礼申し上げます」とのご挨拶がありました。

今大会には、チェコ語を学んでいる社会人・学生13名が出場しました。5分間の持ち時間で、「チェコ音楽年2014——チェコ音楽と私」「私のお気に入りの町」の二つのテーマからいずれかを選んで発表し、発表後に審査員から質疑を受けました。



チカダ賞受賞記念国際シンポジウムを開催

日時..2014年6月7日
場所..学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学は、2014年6月7日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールにて、チカダ賞受賞記念国際シンポジウム (International Symposium Commemorating Winning of the Chikada Prize) を開催しました。昨年12月9日に本学の水田宗子理事長が、

スウェーデン大使館より東アジアの生命と尊厳を表現する詩人に授与される国際的な詩の賞である「チカダ賞」を受賞しましたが、今回の受賞を契機に、「自身もウプサラ大学 (Uppsala University) ・京都大学 (Kyoto University) で文学の博士号を取得された

カテリーナ・フィアルコヴァー大使、東京外国語大学の篠原琢教授、東京外国語大学のマルケータ・ゲブハルトヴァー (Marjeta Gebhartova) 特任講師、外務省中欧課の東海林郁夫氏、昨年度の優勝者の榎田ひかりさんからなる5名の審査員による厳正な審査を経て、大変豊かな表現力 (フィアルコヴァー大使評) が認められ、細田春音さんが1位に選ばれました。また、「水田宗子理事長賞」には、井上美和子さんが選ばれました。井上さんは看護師として勤務される中、自宅でチェコ語を勉強しておられます。優れたチェコ語のレベルに加え、大変なご努力が評価され、選考の決め手となりました。

表彰式後の懇親会では、チェコ大使館のシェフによる軽食が用意され、参加者全員が交流し、親睦を深める機会となりました。

本学は、チェコのカレル大学 (Charles University in Prague) ・マサリク大学 (Masaryk University) ・プラハ経済大学 (University of Economics, Prague) の3校と学術交流協定を締結しており、セミナーや講演会を主催する等、積極的に国際交流を展開しています。



学生と歓談する水田理事長とカテリーナ・フィアルコヴァー大使

今後もグローバル人材の育成に向けた国際交流活動の強化の一環として、チェコを含む中欧地域とより一層の学術交流を行っていきます。

参加パネリスト

- ラーシュ・ヴァリエ
駐日スウェーデン大使・俳人
- 水田宗子
第6回受賞者
- 有馬朗人
俳人
- 申庚林
第4回受賞者
- 文貞姫
第5回受賞者
- 北島
詩人
- 白石かずこ
詩人
- 財部鳥子
詩人
- 高橋睦郎
詩人
- 吉増剛造
詩人
- 佐川亜紀
詩人
- 田原
詩人
- 韓成禮
詩人・翻訳者
(第3回受賞者高銀の詩を翻訳)



パネル1のメンバー (左からヴァリエ大使、有馬氏、申氏、文氏、水田氏、韓氏)



パネル3の様子

文学者であり、すぐれた俳人でもある、スウェーデン王国ラーシュ・ヴァリエ (Lars Larsson) 大使閣下、過去のチカダ賞受賞者、東アジアの有名な詩人の皆さんが集まっていた。 「生命の尊厳を表現すること (Giving World to the Inviolability of Life)」をテーマ

マに、三つのセッションからなるシンポジウムが行われました。参加されたパネリストの方々は、右のとおりです。シンポジウムでは、ヴァリエ大使閣下からチカダ賞についての説明、水田理事長からの

チカダ賞のきっかけとなったスウェーデンの詩人でノーベル文学賞受賞者であるハリー・マーティンソン (Harry Martinson) の詩集『アニアラ (Aniara)』についてのお話に続き、左のテーマに基づいたディスカッションが行われました。

ディスカッションのテーマ

パネル1

北欧の詩人と東アジアの詩人との出会いとしてのチカダ

パネル2

外地経験と詩・表現

パネル3

東アジアの詩の未来

パネル1においては、東アジアをベースに世界に広がる詩論、翻訳論、詩人論が展開さ

れました。パネル2においては、外地をテーマにそれぞれが歩んできた人生が率直に語られ、それがいかに詩表現に生かされているかが討論されました。パネル3においては、パネリストの皆さんが東アジアの詩の未来について一言ずつメッセージを話し、母語によるポエトリー・リーディングがなされ、会場の大きな感動を呼びました。

最後に、音楽家吉岡しげ美氏による詩の弾き語りが行われました。吉岡氏は、金子みすず、与謝野晶子、茨木のり子など日本の女性詩人の詩や短歌などに曲をつけ、ピアノの弾き語りで人々の心をとらえている方です。

またチカダ賞のお祝いとして、水田氏による新しい書き下ろし作品である「書かれなかったラブレター」が、吉岡氏によるソロとJOSAI紀尾井町混声合唱団による四部合唱（特別編曲・伊藤康英氏）が同時に披露され、会場から大きな拍手を浴びていました。

ミャンマーは2011年の民主化以来、本格的な経済発展に向けて成長軌道に乗りつつあり、東南アジアでも最も注目されている国の一つです。また今年、日本とミャンマーが外交関係を樹立して60周年となる記念すべき年でもあり、今回の調印式はその記念事業の一つとして在ミャンマー日本大使館から認定されました。

調印式では、はじめに森本常務理事が「本日はヤンゴン外国語大学を訪問することができ、本当に光栄です。ミャンマーは急速に経済・産業が発展しており、今後の両国の懸け橋となる人材が求められています。今回の協定締結によりそのような人材を育成し、両大学で教育・研究面の交流を進めていきたいと思いを」と挨拶しました。

これを受け、ルイン・ルイン・ソー学長も「本学はこれまでロシア、韓国、タイ、フランスの大学と協定を結んでいます。今回初めて日本の大学として、学校法人城西大学と協定を結ぶことができ大変光栄です。今後、両大学にとって実のある交流を深めていきたい」と挨拶されました。

その後、両学長による協定書へのサインが行われました。

調印式後、訪問団はキャンパスの案内を受け、キャンパスの施設や日本語学科の講義風景を見学して、日本語を熱心に学ぶ学生たちや日本語学科の先生たちとも交流をいたしました。

ヤンゴン外国語大学は、今年で設立60周年を迎えた学生数約2300名の国立大学で、ミャンマーにおける外国語大学のリーダー的存在です。日本語、中国語、韓国語、英語、ドイツ語、フランス語等の学科があり、日本語学科には約300名の学生と25名の教員が在籍しています。

なお、翌2日に一行は在ミャンマー日本大使館を訪ねました。

使館を訪問して樋口建史特命全権大使と面会し、調印式の報告を行うとともに懇談しました。



協定書の交換を行う森本常務理事（左）とルイン・ルイン・ソー学長（右）

本学は中期目標においてグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げており、ミャンマーについても、かつて日本で勉強したミャンマーの元留学生たちの同窓会組織であるMAJAと2013年10月に連携協力協定を結んでいます。今回のヤンゴン外国語大学との協定締結も、MAJAとの強い結びつきによって実現したものです。2014年11月に日・ASEAN首脳会議がミャンマーの首都ネピドー (Naypyidaw) で予定されており、ミャンマーが同会議の議長国です。日本政府もこれに向けて、6月24日に閣議決定し「元日本留学生など海外人材とのネットワークの構築強化により共創活動を促進する」と新政策の方針を決めています。



ミャンマーのヤンゴン外国語大学と学術交流協定を締結

日時：2014年7月1日

場所：ヤンゴン外国語大学、ミャンマー連邦共和国

学校法人城西大学は、2014年7月1日に、日本の大学として初めてミャンマーのヤンゴン外国語大学 (Yangon University of Foreign Languages) と学術交流協定を締結しました。

これは、本学の水田宗子理事長の代理として、森本雅憲学校法人城西大学常務理事兼城西大学学長を団長とする訪問団がヤンゴン外国語大学を訪問して実現したものです。調印

式には、ルイン・ルイン・ソー (Lwin Lwin Soe) 学長や、キン・エー (Kin Aye) 日本語学科長らをはじめとする同大学関係者約10名、ミャンマー元日本留学生協会 (Myanmar Association of Japan Alumni, MAJA) のミン・ウエイ (Myint Win) 前会長、シー・

シー・シェン (Si Si Shen) 会長ら関係者が在ミャンマー日本大使館の山本敏生公使参事官らが出席して行われました。

そのような折に、日本の大学として最初にヤンゴン外国語大との学術交流協定を結んだことは非常に画期的なことです。

今回の協定締結を機に、ヤンゴン外国語大から本学への留学など、具体的な交流が進むことが期待されます。

ロムアルド・デル・ビアンコ財団と学術交流協定を締結



日時…2014年7月2日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学は、2014年7月2日にイタリアのロムアルド・デル・ビアンコ財団 (Fondazione Romaldo Del Bianco) と学術交流協定を締結しました。イタリアを拠点に活動をしている考古学者である青柳正規文化庁長官の紹介により、締結が実現しました。



協定書の交換を行うバオロ財団会長(左)、青柳文化庁長官(中央)、水田理事長(右)

ロムアルド・デル・ビアンコ財団は、1998年に設立され、ライフ・ビヨンド・ツーリズム (Life Beyond Tourism) という方針で異文化間の対話を促進し、文化遺産の価値とその重要性を喚起することを目的にフィレンツェを拠点に活動しています。

協定締結に先立ち、水田宗子理事長は、「学術交流協定を締結することを大変うれしく光栄に存じます。国際交流活動の一環として、今回の協定を機にイタリアの大学とも積極的な交流を推進したいと思っております」と挨拶しました。続いて、バオロ・デル・ビアンコ (Paolo Del Bianco) 会長も「学校法人城西大学は、温かく迎えてくださり、心よりお礼申し上げます」と挨拶し、財団の紹介を行いました。また、今回の協定締結のきっかけを与えてくださった青柳長官は、「今後、双方との交流を深め、積極的な活動を行うことを期待しています」と挨拶されました。

調印式後、2014年11月に開催されるイコモス (International Council on Monuments and Sites, ICOMOS) 総会2014年フィレンツェ青少年文化遺産イベントについて、さらには今後の活動について活発な議論が行われました。

今回の学術交流協定に伴い、双方の間で具体的な交流がスタートすることが期待されます。

水田理事長がアジア地区理事として 世界女性学長会議に出席



日時…2014年9月5日、6日
場所…伝媒大学、中華人民共和国

2014年9月5日、6日に北京の中国伝媒大学 (Communication University of China) で開催された第6回世界女性学長会議 (World Women University Presidents Forum) に本学水田宗子理事長が、アジア地区代表理事として参加し、基調講演を行いました。

この会議は、伝媒大学名誉学長劉継南先生が主催され、2年に1度開催されるもので、本学も2008年に「高齢社会における女性の学び直し」をテーマに日本会議を開催して



基調講演を行う水田理事長

います。

今回は、世界41か国71名の女性の大学トップが集い、女性、指導、リーダーシップをテーマにさまざまな観点から、2日間にわたってディスカッションが行われました。日本から唯一の参加者であった水田理事長は、「グローバル教育におけるイノベーションと各国大学との連携の必要性について」をテーマに講演を行い、多くの賛意を得ました。また、水田理事長は、日本から唯一の



本学 L-WIN メンバーで劉名誉学長へお祝い



奨学金授与に感謝する奨学生代表



水田理事長ら大学関係者と記念撮影

の参加者ということで注目を集め、新華社、毎日新聞、中国国際放送など多数のメディアから取材を受け、そのインタビューは世界に向けて発信されました。

最終日には、今後さらに知恵を集め、絆を強め、一層の女性のリーダーシップを高めることを目指すという提言が出され、盛況のうちに閉幕しました。

水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ・スロバキア

奨学生表彰式を開催

日時…2014年9月30日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2014年9月30日、水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ・スロバキア奨学生表彰式が東京紀尾井町キャンパスで行われました。

この奨学金は、2009年12月ハンガリー共和国のシヨーム・ラスロー (Solyom

Laszlo) 大統領(当時)が、東京紀尾井町キャンパスを表敬訪問されたことを記念して「水田宗子ハンガリー奨学金」として設立されたのが最初です。

本学は、グローバル人材の育成に向けた国際交流活動の強化を進め、V4諸国をはじめ

とする中欧地域との教育交流を深めており、奨学金は、今年度から新たにスロバキアからの留学生を対象に加えました。

ハンガリーのブダペスト商科大学 (Budapest Business School)・エトヴェシュ・ローランド大学 (Eötvös Loránd University)・カローリ・ガッシュパール・カルビン派大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)・セゲド大学 (University of Szeged) から12名、ポーランドのワルシャワ大学 (University of Warsaw)・ウツチ大学 (University of Lodz)・ポーランド日本情報工科大学 (Polish-Japanese Institute of Information Technology) から7名、チェコのカレル大学 (Charles University in Prague)・ブラハ経済大学 (University of Economics, Prague) から2名、そして今回、初めてスロバキアからコメニウス大学 (Comenius University in Bratislava)・プレシヨフ大学 (University of Presov in Presov) から3人の計24名が城西大学・城西国際大学に留学することになりました。

その表彰式では、水田理事長からの表彰状授与に続き、日本との文化交流を深める学生親善大使が各国から2名ずつ任命されました。

その後、城西大学の留学生を代表してポーランドのリツ・トマシュ (Rydz Tomasz)さんと、城西国際大学を代表してハンガリーのトート・ボゲラルカ (Toth Boglarka)さんが授与の謝辞および決意表明を行い、奨学金により安心して勉学に励めることに対しての水田理事長および関係者への御礼とともに「留学する1年間で日本のさまざまな伝統や日本の経済・社会などを学びたい」と決意を述べました。

最後に水田理事長が「今回、これまでの3か国に加え、初めてスロバキアから3人の留学生を迎えることができ、うれしく思います。これで、中欧のV4諸国が揃いました。皆さんは、日本でさまざまなことを学んでください。その貴重な経験が皆さんのこれからのカリヤに大いに役立つでしょう」と述べました。

出版活動

香港城市大学の Way Kuo 学長著書刊行

日時…2014年4月2日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス

出版活動

2014年4月2日、香港城市大学 (City University of Hong Kong) の Way Kuo (郭位) 学長が2014年度入学式へ臨席のため城西国際大学を訪問し、夜には、城西国際

大学が翻訳を担当した Kuo 学長の著書「科学者の視点から見た原子力発電の課題と将来性」の刊行を記念した晩餐会を開催いたしました。

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



本学と香港城市大学とは、2012年1月に学術交流協定を締結しており、学生交流プロジェクト「Explanation of Japanese Culture and Science」により、これまで城西国際大学から26名の学生派遣、ならびに香港城市大学から20名の学生受入を実施しております。

入学式でKuo学長は「教師や同級生との出会いを大切にしながら、学ぶ姿勢を会得し、自立心を身に付け、母国語の力に根差した外国語を習得し、大学生活を人生の素晴らしい出発点としてください」と新入生を激励されました。

その後会場を移し、Kuo学長の著書『科学者の視点から見た原子力発電の課題と将来性』の翻訳出版記念晩餐会「Reception in Honour of President Way Kuo's Japanese Publication」が開催されました。なお、翻訳

は城西国際大学の中国人教員により組織された翻訳チームが主に担当いたしました。

また当日は、立川志の春さんによる英語落語の口演があり、英語で表現された落語独特の人間の持つおかしみが、Kuo学長をはじめとする香港城市大学一行にも大変好評で、日本の伝統芸能を堪能していただくよい機会となりました。

本晩餐会には香港城市大学から4名の教員がお祝いに駆け付けるとともに、文部大臣および東京大学総長を務められ、現在学校法人根津育英会武蔵学園長の有馬朗人先生や文化庁長官の青柳正規先生、元東北大学総長で、現在城西国際大学グリーンマテリアル研究所所長を務めている井上明久先生など、本学に縁の深い多くの皆さまにご参加いただき盛大な会となりました。



(左)晩餐会でのWay Kuo学長のご挨拶 (右)Kuo学長著者

学校法人 城西大学



〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26
TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299